



教育のユニバーサルデザイン

～小中一貫教育（小中連携）の視点から～

平成 30 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

表紙のデザイン について

多様な個性の児童・生徒たちが、
自分らしさをいかしながら学び合い高め合い、共に成長する。
そんな9年間をイメージしています。

I n d e x

1章 教育のユニバーサルデザインと 小中一貫教育（小中連携） ●●●●●●●●

- Q 1 教育のユニバーサルデザインって何？…………… 1
- Q 2 小中一貫教育、小中連携教育って何？…………… 1
- Q 3 ユニバーサルデザインの視点を取り入れる意義は？…………… 2

2章 人的環境のユニバーサルデザイン化 ●●●●●

- Q 4 人的環境のユニバーサルデザイン化って何？…………… 3
- Q 5 小中一貫教育（小中連携）の取組において、
人的環境のユニバーサルデザイン化を図るには？…………… 3
- Q 6 構成的グループエンカウンターのエクササイズと
対人関係ゲームとの違いは？…………… 4

3章 教室環境のユニバーサルデザイン化 ●●●●●

- Q 7 教室環境のユニバーサルデザイン化って何？…………… 5
- Q 8 小中一貫教育（小中連携）の取組において、
教室環境のユニバーサルデザイン化を図るには？…………… 5
- Q 9 「暗黙のルール」って何？…………… 6

4章 授業のユニバーサルデザイン化 ●●●●●●●●

- Q 10 授業のユニバーサルデザイン化って何？…………… 7
- Q 11 小中一貫教育（小中連携）の取組において、
授業のユニバーサルデザイン化を図るには？…………… 7
- Q 12 それぞれの創意工夫を、どのようにして共有するの？…………… 8

5章 組織的な取組の推進 ●●●●●●●●●●

- Q 13 取組を始めるに当たり、最初に大切なことは？…………… 9
- Q 14 画一的な取組になってしまうのでは？…………… 9
- Q 15 業務の多忙化や教職員の負担感の増大につながるのでは？…………… 10
- Q 16 取組に対して、適切な評価とその後の改善を行うには？…………… 10

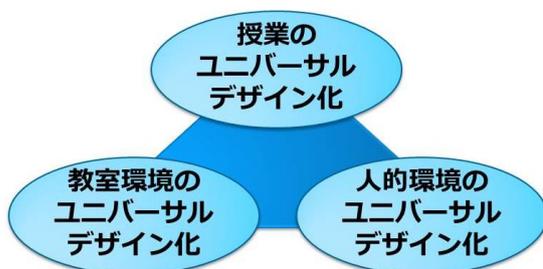
Q 1

教育のユニバーサルデザインって何？

A 「より多く」の子どもたちにとって、
わかりやすく、学びやすく配慮された教育のデザインです。

障害者の権利に関する条約第2条では、ユニバーサルデザインを「調整又は特別な設計を必要とすることなく、最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品、環境、計画及びサービスの設計」と定義しています。

このような考え方を教育に反映したものが、教育のユニバーサルデザインです。



教育のユニバーサルデザインを具現化するためには、人的環境、教室環境、授業の3つのユニバーサルデザイン化を柱にしてバランスよく取り組むと効果的です。

出典：阿部利彦編著 2014『通常学級のユニバーサルデザイン プラン Zero』東洋館出版社

Q 2

小中一貫教育、小中連携教育って何？

A 小中連携教育は情報交換や交流を通して小・中学校の円滑な接続を、
小中一貫教育は目指す子ども像を共有して系統的な教育を目指します

■ 小中連携教育

情報交換や交流を行うことを通じて、
小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

■ 小中一貫教育

小・中学校が目指す子供像を共有し、
9年間を通じた教育課程を編成し系統的な教育を目指す教育

出典：中央教育審議会 2014「子供の発達や学習者の意欲・能力等に応じた柔軟かつ効果的な教育システムの構築について（答申）」

Q 3

ユニバーサルデザインの視点を取り入れる意義は？

A

通常学級の包括性を高めて多様な学びの場を確保するとともに、9年間の切れ目のない支援を実現します。

文部科学省が平成24年に行った調査によって、通常の学級における教育的支援を必要とする児童・生徒の割合が6.5%であること、そのうち何の支援も受けていないケースが4割近くに上ることが明らかになっています。

また、発達障害の児童・生徒が適切な支援を受けられず、理解不足による過度な叱責やいじめなど否定的な周囲の対応を経験する中で、情緒の不安定、反抗的な行動、深刻な不適応の状態等を招くことがあります。これを二次障害といいます。

ユニバーサルデザインの視点から小中一貫教育（小中連携）の取組を見直すことで、通常学級の包括性を高めて多様な学びの場を確保するとともに、二次障害を含め、様々な問題を緩和する9年間の切れ目のない支援を実現します。

Tips 1

二次障害による悪循環への対応

発達障害のある児童・生徒が周囲からの否定的対応を受けると、自己評価を低下させ、それによってますます否定的対応を受ける機会が増えるという悪循環に陥ることがあります。この悪循環を断つためには、普段から児童・生徒の肯定的な面に注目して関わりを持つとともに、状況に応じて次のような対応を行います。

方針	方法	支援の担い手(例)
問題でない部分に注目する	望ましい行動をしているときに、ほめる、励ます 「○○（望ましい行動）しているね」などと言語化する	関係者全員
情緒の安定を図る	①カウンセリング、プレイセラピー ②話を聴く ③子どもの感情を推測して言語化する	①カウンセラー ②③教師 ②③保護者
学級集団全体に配慮する	日常的に、小さな望ましい行動に注目した働きかけを全体に行う	教師
学年ないし学校全体で取り組む	子どもの状態や対応方針を共有する 役割分担に沿って対応する	学校関係者

出典：齊藤万比古編著 2009『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』学研教育出版

Q 4

人的環境のユニバーサルデザイン化って何？

A

児童・生徒の心にアプローチしてクラスの雰囲気をやわらかくし、児童・生徒が学び合うための環境や関係づくりをしていくことです。

クラスの雰囲気がやわらかく、児童・生徒同士が支え合うことのできる環境や関係は、教育的ニーズを抱える児童・生徒にとって最大の支援となります。

人的環境のユニバーサルデザイン化を図るためには、子どもたちへの日頃の指導のほか、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター、対人関係ゲームなどを活用する働きかけを行うこともできます。

集団で育成したいソーシャルスキルトレーニング

- あいさつに関するスキル
- 自己認知スキル
- 相互理解のための言葉・表現スキル
- 相互理解やセルフコントロールのための気持ち認知スキル
- セルフマネジメントスキル
- コミュニケーションスキル

出典 阿部利彦編著 2014『通常学級のユニバーサルデザイン プラン Zero』東洋館出版社

Q 5

小中一貫教育（小中連携）の取組において、人的環境のユニバーサルデザイン化を図るには？

A

小学生と中学生と一緒に、構成的グループエンカウンターのエクササイズや対人関係ゲームを行うことも考えられます。

小中一貫教育(小中連携)においては、校種を越えた様々な形での異学年交流が行われます。それらをより有意義なものにするためには、構成的グループエンカウンターのエクササイズや対人関係ゲームを通して、上記のようなソーシャルスキルの育成を意識した交流活動を実施することも効果的です。

重要なのは、異学年交流を、単なる楽しいイベントで終わらせるのではなく、児童・生徒たちが学び合う環境や関係づくりをしていくきっかけにすることです。

Q 6

構成的グループエンカウターのエクササイズと対人関係ゲームとの違いは？

A

対人関係ゲームは、ゲームそのものの中でソーシャルスキルトレーニングを行うとともに、より良い集団づくりを目指します。構成的グループエンカウターは、エクササイズの後、その時の気持ちを語り合うことで親密な人間関係を体験させます。

Tips 2

対人関係ゲームの例

対人関係ゲームには、様々な種類のものがあります。それぞれのねらいを意識して取り入れることが大切です。

種類	ゲーム	概要
交流する	探偵ゲーム	①「犬が好き」などの質問項目を書いたシートを配付します。 ②じゃんけんをして勝った人から順に、好きな質問をします。 答えが「はい」であれば相手の名前を書きます。 ③制限時間内に多くの人の名前を集めます。
心をかよわす	背中にメッセージ	①厚めの画用紙などにひもを通し、背中にかけます。 ②自由に歩き、画用紙に互いの「良いところ」を書きます。 ③書いてもらった内容を読み合います。
協力する	いろいろビンゴ	①「クラスの良いところ」など、テーマを決めてグループごとに9項目をビンゴシート（9マス）に書き出します。 ②グループで順番に書き出した内容を一つ挙げ、○を付けます。 ③タテ・ヨコ・ナナメで三つ並んだら「ビンゴ」（あがり）です。
役割分担し連携する	横つなひき	①綱引きの綱を用意します。綱は2つのチームの陣地の間に、横向きに置き、縄を挟んで2つのチームが向かい合います。 ②縄を引っ張って自分たちの陣地に引き込みます。途中、ピンチのところへ移動して助けたり、チャンスのところへ移動して加勢したりします。 ③誰かが自分の陣地に足を入れたら勝ちです。
折り合う	新聞紙タワー	①グループを作り、一人一枚の新聞紙を用意します。 ②新聞紙を使ってできるだけ高いタワーを作るためにどうすればいいかを一人一分ずつグループで話します。 ※グループ内で妥協点を探ろうとする折り合いが大切です。 ③制限時間内に最も高いタワーを作ったグループが勝ちです。

参考：田上不二夫監修 伊澤孝著 2015『学級の仲間づくりに活かせるグループカウンセリング対人関係ゲーム集』金子書房

Q 7

教室環境のユニバーサルデザイン化って何？

A

児童・生徒が落ち着いて過ごし、学習活動に集中できる環境づくりを進めることです。

児童・生徒が落ち着いて過ごし、学習活動に集中できるようにするためには、不要な掲示物を外すなどして子どもの学びを妨げる要因を減らしたり、「暗黙のルール」や見通しを可視化したりすることが大切です。

ポイント

- **妨害刺激の撤去**
「掲示物を後方に貼る」
「無地のカーテンなどで教室前方のロッカーや戸棚を覆う」等
- **物理的な構造化**
「『何を入れるのか』『どのように入れるのか』が分かりやすいようにする」等
- **時間の構造化**
「基本的なスケジュールを前面に提示する」
「予定の変更は目立つようにする」等

出典：神奈川県立総合教育センター 2010

『明日から使える支援のヒント ～教育のユニバーサルデザインをめざして～』を基に作成

Q 8

小中一貫教育（小中連携）の取組において、教室環境のユニバーサルデザイン化を図るには？

A

小・中学校で掲示物等の系統性や発展性を確保したり、児童・生徒が協働的に環境整備を進めたりします。

教室環境のユニバーサルデザイン化を進めるに当たっては、作成した掲示物等のデータをICT機器で電子化し、共有化しておきます。それによって児童・生徒がどのような環境の中で学校生活を送ってきたかを把握したり、各学年における掲示物等を比較して系統性や発展性を整理したりすることができます。

Q 9

「暗黙のルール」って何？

A

整理整頓の仕方や学習活動の進め方など
学校生活をより良く送るための手順や決まりです。

学校生活のあらゆる場面に「暗黙のルール」が存在します。

教室環境のユニバーサルデザイン化では、児童・生徒の発達段階やその場の動線等を踏まえ、ルールをシンプルにして分かりやすくするとともに、掲示物等で視覚化して明確にすることが大切です。

Tips 3

教室の掲示物

掲示物については、不要なものを省いてすっきりとさせることが原則です。ただし、学級の児童・生徒にとってその掲示物が本当に必要なのか、という点については注意が必要です。人的環境や授業のユニバーサルデザイン化の視点も踏まえながら、掲示物の有無を決めたり様々な配慮を心掛けたりします。

掲示物への配慮（例）	
教室前方	<input type="checkbox"/> 学習に集中できるように、無駄な掲示物がない。 <input type="checkbox"/> 前方掲示板にカーテンが設置されている。 <input type="checkbox"/> 掲示物の大きさやデザインがそろっている。 <input type="checkbox"/> 掲示位置の縦と横をそろえ、カテゴリーごとにまとめられている。 <input type="checkbox"/> 色づかいが配慮されている。 <input type="checkbox"/> 掲示物が風でめくれないように固定されている。
教室側面及び前方	<input type="checkbox"/> 学習の軌跡が掲示してある。 <input type="checkbox"/> 発表の話型や学習活動の手順などが掲示してある。 <input type="checkbox"/> 季節や学期、単元等で掲示に変化がある。 <input type="checkbox"/> 子どもが創意工夫できるスペースが確保されている。
教室後方	<input type="checkbox"/> 子どもが成長を実感できる記録がある。 <input type="checkbox"/> 学級目標が視覚化されている。 <input type="checkbox"/> 子どもの自信につながるように作品が掲示されている。 <input type="checkbox"/> 子どもが創意工夫できるスペースが確保されている。

出典：阿部利彦編著 2017『通常学級のユニバーサルデザインスタートダッシュQ & A 55』東洋館出版社
※ 掲示物に関する内容のみを抜粋の上、一部加筆・修正して作成

Q10

授業のユニバーサルデザイン化って何？

A

通常の学級にいる全員の児童・生徒が楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指して、授業づくりを進めることです。

小貫悟氏、桂聖氏は、授業のユニバーサルデザイン化における学びの階層を「参加」、「理解」、「習得」、「活用」の4段階に分類し、授業でのバリアを生じさせる発達障害のある子の特徴と授業でのバリアを除く工夫を整理しています。

なお、4段階の階層のうち、「参加」及び「理解」は主に一単位時間の授業、「習得」は複数の学年や単元の学習、「活用」は日常生活や発展的課題に関する内容になります。

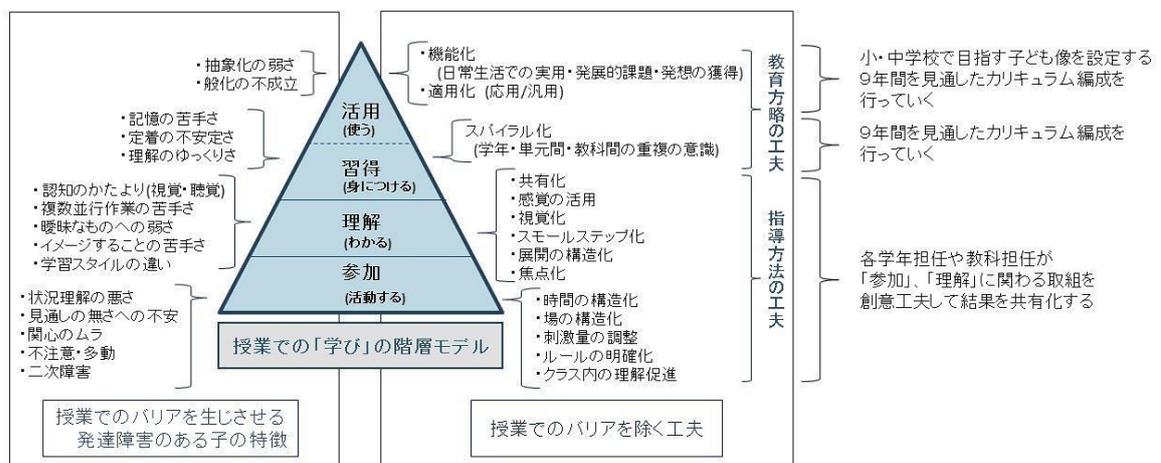
Q11

小中一貫教育（小中連携）の取組において、授業のユニバーサルデザイン化を図るには？

A

各学級担任や教科担任等が創意工夫を共有するとともに、カリキュラム編成や目指す子ども像の設定をする際にも意識します。

各学級担任や教科担任等が「参加」、「理解」に関わる取組を創意工夫して結果を共有するとともに、「習得」、「活用」を目指して9年間を見通したカリキュラム編成を行うことが大切です。なお、「活用」に関しては、小・中学校で目指す子ども像を設定する際にも意識します。



出典：桂聖・石塚謙二・廣瀬由美子・川上康則・日本授業UD学会編著 2017『授業のユニバーサルデザイン Vol.10』東洋館出版社 ※ 「授業のUD化への階層モデル」を基に加筆・修正して作成

Q12

それぞれの創意工夫を、
どのようにして共有するの？

A

ネットワーク環境を活用して資料の共有化を進めたり、
小・中学校合同で研究授業を行って実際の指導の様子を見合ったり
します。

Tips 4

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり

小・中学校合同で研究授業を行う場合、あらかじめ授業づくりの視点をリスト化しておく、その後の協議が焦点化されます。その際、単なる授業の画一化を避けるために、共通して設定する項目と、それぞれの授業者が個別に設定する項目を組み合わせることも考えられます。

チェックリスト			
校内統一項目	A 授業の構成	① 「導入」「展開」「まとめ」に一貫性があった。	
		② 学習活動の時間設定は、児童・生徒にとって適切だった。	
		③ 学習形態（個人・ペア・グループ）は、児童・生徒にとって効果的だった。	
		④ 課題の解決に向けたしかけや支援は、児童・生徒にとって効果的だった。	
		⑤ 課題の難易度は、児童・生徒にとって適切だった。	
	B 教材や教具 板書	⑥ 板書は、授業の流れや内容を捉えやすいように構造化されていた。	
		⑦ 板書は、どの席からも見やすい字の大きさや行間、色づかいだった。	
		⑧ 板書は、ノートやワークシートとの関連が図られていた。	
		⑨ 教材や教具は、操作の難易度が児童・生徒にとって適切なものだった。	
		⑩ 教材や教具は、課題解決の支援として効果的なものだった。	
	C 説明や指示 話し方	⑪ 話し方は、スピードや間の取り方が児童・生徒に合っていた。	
		⑫ 話し方は、短文を用いて要点が明確だった。	
		⑬ 説明や指示の際は、聴覚情報以外の情報も併用していた。	
		⑭ 説明や指示の際は、曖昧な表現を避け具体的な表現を使っていた。	
		⑮ 説明や指示の際は、一指示一活動を心掛けていた。	
個別設定項目	D 本時の 授業ポイント	⑯ 本時の学習への意欲を高め「ひきつける」ことができていた。	
		⑰ 授業のねらいをしばって「方向づける」ことができていた。	
		⑱ 児童・生徒同士の思考を「むすびつける」ことができていた。	
		⑲ 児童・生徒の理解をこまめに「そろえる」ことができていた。	
		⑳ 授業の最後に「わかった」という実感を持たせることができていた。	

※ ◎とてもそう思う ○思う —評価の対象ではない で記入

出典：阿部利彦編著 2017『通常学級のユニバーサルデザインスタートダッシュQ & A55』東洋館出版社

※ 一部加筆・修正して作成

Q13

取組を始めるに当たり、最初に大切なことは？

A 教育のユニバーサルデザインについての正しい認識と必要感を共有することです。

教育のユニバーサルデザインは、発達障害等を含む教育的ニーズを有する児童・生徒にとっては「ないと困る支援」であり、その他の児童・生徒にとっては「あると便利で・役に立つ支援」です。また、授業においては余計な混乱やつまずきを減らし、学習効果をより高めることにつながります。

取組を始めるに当たっては、先進校の情報を収集して参考にしたり、小・中学校合同研修会等に外部講師を招聘したりして、教育のユニバーサルデザインについての正しい認識と必要感を共有することが大切です。

参考：佐藤慎二 2014 『実践 通常学級ユニバーサルデザイン I 学級づくりのポイントと問題行動への対応』 東洋館出版社

Q14

画一的な取組になってしまうのでは？

A 児童・生徒の実態を尊重し、統一性と多様性を両立させる形で取組を進めていきます。

組織的に取組を進める方法としては、指導の在り方や工夫、配慮等をリスト化し、教職員で共有することが考えられます。しかし、教育のユニバーサルデザインを機能させるためには、その場の児童・生徒の実態に応じた柔軟な対応が欠かせません。したがって、統一性と多様性を両立させる形で取組を進めていく必要があります。

例えば、指導の在り方や工夫、配慮等をリスト化する際は、校内の教職員がそれまで創意工夫してきたことに着目し、それらを整理したり価値付けたりすることから始めるようにします。また、授業に関する内容については、小・中学校のどの教科でも取り入れられる視点で整理します。

さらに、作成したリストは、それをルールとして固定するのではなく、あくまでもより良い取組のヒントとして実際の指導の場では児童・生徒の実態を尊重することや、その後の修正を重ねていくことが重要です。

Q15

業務の多忙化や教職員の負担感の増大につながるのでは？

A

児童・生徒の困難さの緩和と様々な問題の未然防止につながるため、中長期的には教職員の負担も軽減します。

教育のユニバーサルデザインの視点は、児童・生徒の困難さの緩和と様々な問題の未然防止につながるため、中長期的には教職員の負担も軽減します。ただし、取組を始めるに当たり、一定の負担が生じることは避けられません。

そこで、教職員の多忙化や負担感を解消する取組を併せて行う必要があります。

例えば、小中一貫教育(小中連携)の取組と平行して、それぞれの小・中学校が独自の校内研究に取り組んでいる場合は、小中一貫教育(小中連携)の取組自体を統一した校内研究のテーマに設定する、個別の研修と校内研究を組み合わせるなど、スクラップアンドビルドの考えに立って、業務の集約を行うことが大切です。

Q16

取組に対して、適切な評価とその後の改善を行うには？

A

根拠となる資料を準備するとともに、多様な視点から検証を行います。また、定期的な打合せや情報交換が重要です。

取組の効果に対する適切な評価とその後の改善を行うためには、根拠となる資料を準備するとともに、多様な視点から検証を行う必要があります。また、年度末だけでなく、小・中学校の担当者が定期的に集まって打合せをしたり、情報交換をしたりする場の設定が重要です。

そこで、学校評価の項目に小中一貫教育（小中連携）に関する内容を取り入れたり、レディネステスト等を定期的に行ったりして評価のための資料とすることが考えられます。また、評価の際に支援教育の専門家を加えることも一つの方法です。

なお、打合せや情報交換の日程を、あらかじめ年間計画の中に優先的に入れたり、人的環境、教室環境、授業のユニバーサルデザイン化という三つの柱ごとに部会を設置して、部会ごとに日程調整をしたりすることも考えられます。

『教育のユニバーサルデザイン ～小中一貫教育（小中連携）の視点から～』作成関係者

<助言者>

所 属	職 名	氏 名
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部	総括研究官	屋敷和佳

<神奈川県立総合教育センター>

所 属	職 名	氏 名
教育課題研究課	指導主事	久本卓人
教育課題研究課	指導主事	吉岡大介
教育課題研究課	教育指導員	飯田薫

教育のユニバーサルデザイン

～小中一貫教育（小中連携）の視点から～

発 行 平成 30 年 3 月

発行者 北村公一

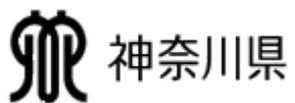
発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

電話 (0466)81-1659 (教育事業部教育課題研究課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子については、ホームページで閲覧できます。



神奈川県立総合教育センター

善行庁舎

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466) 81-0188【代表】

FAX (0466) 83-4660

亀井野庁舎（教育相談センター）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466) 81-8521【代表】

FAX (0466) 83-4500

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>